

第3回総合戦略推進会議 議事要旨

1. 日 時 平成27年7月30日(木) 18時30分～20時30分

2. 場 所 市役所10階 第6会議室

3. 出席者 計29名 (有識者13名及び関係部長16名)

4. 議事内容報告

1 開会

※出席者自己紹介(今回より就任した委員)

2 議題

(1) 帯広市人口ビジョン(骨子)について

※事務局より骨子の内容について説明

(説明要旨)

- 国が示している人口ビジョン策定の手引きを網羅する形で作成している。
- 今後、十勝圏や帯広圏の視点も意識した追記を行いたい。
- 対象期間は、国の長期ビジョンの機関と同様、2060年までとする考えである。
- 現在は人口の現状と将来推計の分析まで整理を進めており、将来展望については、今後、原案までにお示しをしたい。

(主な質問・意見)

- 帯広市の婚姻率はいくらか。
→正確な数値は把握していないが、平成22年の帯広圏の有配偶者率は道内平均より若干高めである。
- 管内町村は人口が流出している状況であり、それを抑えるという考えになると思う。一方、帯広市の場合、今は均衡しているが、10年前は周辺町村の宅地造成などにより大幅な減少があった。将来的に現在の均衡が続くという見通しを立てて良いのか迷うところである。

※事務局より総合戦略及び人口ビジョン策定の参考とするため、高校生・帯広畜産大学生・転出者・転入者を対象にアンケートを実施した旨を報告

(主な質問・意見)

- 転入者・転出者の回収率が30%を切ったようだが、統計上信用できる数値か。
→1年間の転入者・転出者は大体8,000人と考えており、それに対する信頼度は94%まで満たしている。

- 住みやすい・住みにくい点という質問について、公共料金等が高い、という項目が総じてマイナス評価となっているが、どのように解釈したら良いのか。また、高校生もマイナス評価をしているがなぜか。
→高校生にとっては、バス料金が高いといった意見が、この項目に結果として反映されるものと思われる。
→大学生や転出入者もマイナスとしている要因は正確には把握できていない。
- まちの活気について、高校生の評価が大幅にマイナスであるが、どのように分析しているか。
→現在、分析途中である。
- 物価について、転入者はマイナス、転出者はプラスであるが、どのように分析しているか。
→回答者本人に関わりの大きい部分で判断されていると思うが、詳細な分析はこれからであり、可能な限り分析に努めてまいりたい。
- 人口減少対策を考えたとき、マイナスを払拭するような取り組みを打ち出していかなければならない。何が原因かわからない、といった状況のままにならないよう、アンケート結果を活用していただきたい。
- 帯広畜産大学は6割の学生が道外から転入してきており、そうした状況から、自然環境が良いという点についてプラス評価を得ているのだと思う。
- 帯広畜産大学は道内の他の大学と比べても、道外から来て道内で定着する割合が高いという数字が出ている。北海道の農畜産業に憧れを持っている学生が多いと思われる。
- 公共料金については、帯広市でどうにかできるのは水道料金くらいで、電気料金やガス代を意識して回答されているのであれば、ここで議論することではないと思う。また、物価についても、何をもちて高いと感じているのか。この地域だけが高いということで回答しているとは考えにくい。
- 男性は進学で転出し、就職で戻ってくる傾向にある一方、女性は転出したまま戻りが弱いという傾向にあるが、女子学生はこの地に留まりたいと希望しているという結果が出ており、希望と現実が違っている。この辺りが施策の手立てになるのではないかと思う。
- 今回のアンケート結果は現時点では参考程度に扱うべき。回答者もイメージで答えている部分があると思う。この結果を受けて、どういう課題があり、何を行うべきか分析をして、ここでの議論になるものと考える。

(2) 帯広市総合戦略 骨子イメージについて

※事務局より、総合戦略の骨子イメージについて説明。

(説明要旨)

- 総合戦略は、「戦略策定の考え方」「取り組みの基本方針」「今後の取り組みの方向」の3章立てを想定している。
- 取り組みの基本方針中、基本理念については、すでに総合戦略を策定している自治体によって、記載の有無にばらつきがあるが、帯広市としては、地方創生

は行政だけではなく、様々な方が力を合わせて取り組んでいくことが重要であり、そのためには理念を共有することが大切であると考えていることから、キャッチフレーズの作成も視野に入れながら、基本理念を整理していきたいと考えている。

- 本日は、「戦略策定の考え方」と「取り組みの基本方針」についてご意見をいただきたい。また、次回の推進会議では、「今後の取り組みの方向」として、民間に期待される役割と行政による取り組みについて、議論を行ってまいりたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

(主な質問・意見)

- この会議の方向性として、帯広市の人口が減っていくということに対して、出生率を上げ、交流人口を増やしていくという考え方で進めるということが良いか、確認しておきたい。
 - このままでは人口が減少することは間違いなく、それで良いとは認識しておらず、何とかして減少の幅を抑えていくことが必要と考えている。ただ、人口を増やすところまでいけるかという点、現実的には難しいかと考えている。
- 帯広市の総合計画の中で、人口の目標や取り組みの柱は書かれていると思うし、産業振興会議やけんこう帯広 21 に係る審議会などでも人口に関する議論はされており、重複していると感じている。また、取り組みの幅が広すぎるのではないかと思うのだが、どのように整理しながらまとめていくのか。
 - 総合計画や分野別計画と重なる部分はあると考えているが、その中で、今回の戦略は、人口減少対策の部分に視点を置きつつ、どこを重点的に進めていくかを考えることが一番良いかと思っている。また、各審議会においても、まちづくり全般に関する意見交換が行われてきたものと考えており、それらを見無視するつもりではなく、そのために各部長もこの会議に参加させていただいている。
 - 第一回目の議論で、委員の方からは、やはりフードバレーとかが重要であるといった意見や、仕事がないとどうしようもないという意見もいただいております。今回、委員の皆様には、民間に期待される役割、行政による取り組みを全般的に意見いただくというよりは、各委員が最も重要であると考えている部分に絞っていただいて意見をいただく形で良いと考えている。
 - 事務局から、こう考えてくださいと示すよりは、それに縛られずに自由な意見をいただきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。
- 住みやすいまちづくりに努めることによって、最終的な結果として人口増加、維持につなげるという考え方で良いのか。
 - どういふことをやっていけば人口を食い止められるか、ということ議論し合うのがこの場であるとお願ひいただきたい。
- 管内町村の総合戦略はどのようになっているか。
 - 基本理念を具体的に打ち出しているところはまだないが、帯広とどう繋がるかという視点がある。逆に、帯広は、周りの町村とどういふ役割を担うか、という視点が、広域連携も含めて必要であると思う。

- 「取り組みの基本方針」中、「時代の潮流と地域の課題」については、前回の会議でまとめた資料から抽出するようなイメージか。
 - 前回お示しした課題は、「今後の取り組みの方向」の基本目標ごとに整理する具体的なものである。したがって、「時代の潮流と地域の課題」に記載する地域課題は、もう少し大きなものになる。

(3) その他

※事務局より、次回は8月28日（金）に開催予定との報告があった。

以上